



一般社団法人
戦災復興支援センター
War Disaster Reconstruction Assistance Center

WDRAC Annual Report

2022.12.25

一般社団法人戦災復興支援センター第1期 年次報告書 (2022年3月-9月)

1. 代表理事の挨拶
2. WDRACのマニフェストとは
3. 設立からこれまでの歩み
4. WDRACの活動内容
5. WDRACの特徴
6. アンサンブヒーローたちの活動内容ご紹介
7. 寄付について（実績）
8. 事業振り返り
9. 会計報告書
10. 第二期目に向けて
11. 組織概要
12. 寄付者からのメッセージ
13. お問い合わせ

Greetings from the Representative Director

代表理事の挨拶

初動の年、着実に歩みを進めることができました。

2022年3月の法人設立から1期目を終える9月まで、多くの方々の協力と支援を賜り着実に歩みを進めることができました。こころより感謝申し上げます。

ウクライナ戦争以前から、世界各地で武力紛争が起きていたことは把握・認識していましたが、私にとってそれは「遠い世界で起きていること」でした。

この活動を始めにきっかけになったのは「友人の友人」でした。3月の初旬、アメリカ人の友人が避難者をバスでドイツまで送り届ける活動をしているミカの支援を依頼する、SNSの投稿を目にしました。

「友人の友人が起きていること」を知ったことで、「遠い世界で起きていること」から友人の輪の中で起きていること、「身近な世界で起きていること」に変わりました。

1期目の活動は、この「友人の輪」の中で広がっていきました。アンサングヒーロー達との繋がりも全員が「友人の友人」です。

顔が見える関係性の中で、戦災で苦しむ方々への支援の輪を少しずつ広げていけるよう、2年目の活動に向けて引き続きのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



一般社団法人 戦災復興支援センター
(WDRAC)

代表理事 長尾 彰

Manifest

WDRACのマニフェストとは

We support those who support.



「支援する人たちを支援すること」が私たちの目的です

彼らは、大きな組織に属さず個人として行動し、草の根のネットワークやコミュニティと連携しながら支援活動を展開しています。そして、豊かな資金や豊富な人材を抱えるわけではなく、現場での作業に忙殺されていて、「これをしてもらったら助かるのに」「お金があれば解決できるのに」「一体これからどうなってしまおうだろう」という不安を感じています。

しかし、彼らと同じようにひとりの市民として支援の後押しをすることができたらどうでしょう？「支援する人たちを支援する」ことを通じて、苦しみ傷つき困難の最中にある人たちの助けになることができるとしたら？国・言語・文化・慣習・信仰を越えて、お互いに助け合い支え合うネットワークを世界中に広げられるとしたら、どんな世界を創り出すことができるでしょうか？

「自分には何もできることがない」と諦めたり、傷ついた人がいることをわかっていながら対岸の火事として横目で見るとはならず、「自分にもできることがある」と行動し、同じような気持ちでいる仲間たちと連帯することで、武力や暴力によって傷つけられたこの世界の調和とバランスを取り戻すことができます。

私たちが他と異なるのは、個人の意思が尊重されるフラットでオープンな組織で、少しずつ力を持ち寄り、支援活動をする人たちのニーズに応じた活動をするところです。そして、また、特定の国家・思想・信仰に偏らず、何事にも柔軟に対応し、試行錯誤を歓迎し、常にユーモアと明るさを忘れません。

私たちは、どんな理由があれ、尊厳を奪われてはならず、武力と暴力ではなく対話を通じて問題を解決していかなければならないこと、また、ひとりの小さな力も連帯を通じて大きなエネルギーや希望を生み出すことを信じています。

そして、これらを通じて、私たちは Change everything with love (愛ですべてを変えること) を約束します。

History

設立からこれまでの歩み

2022年2月24日

ロシアによるウクライナへの侵略

3月15日

長尾彰氏のFacebookによる呼びかけ

3月17日

呼びかけに賛同したメンバーによる、
コミュニケーション開始 / チーム編成

3月20日

団体ロゴ完成

3月25日

団体設立・登記
マニフェスト完成

4月1日

ティザーサイト公開

4月21日

団体公式サイト公開、寄付受付開始

4月28日

Wdrac Radio 「KEEP GOING!」 放送開始

5月7日

メンバー1名が日本からルーマニアへ
パトリッチアの支援を手伝う (5/23まで)

5月27日

NHK「おはよう日本」にて、団体の
紹介や活動内容が放映される

6月8日

サイモン、WDRACの寄付により完成した
メディカの拠点をYouTubeにて公開

6月18日

後援「プレイバック・シアター ワークシ
ョップ」開催

6月28日

パトリッチア クラウドファンディング型
寄付開始 (7/15まで)

9月17日

サイモン クラウドファンディング型
寄付開始 (9/30まで)

9月末日

サイモン・トラヴィスが
共同で戦災復興を目的とした
NGO設立

10月2日

長野県佐久穂にて後援「音楽
と映像のチャリティイベン
ト」開催

12月9日

パトリッチア クラウド
ファンディング型寄付開
始 (12/23まで)

12月25日

活動報告書 公開

Activities

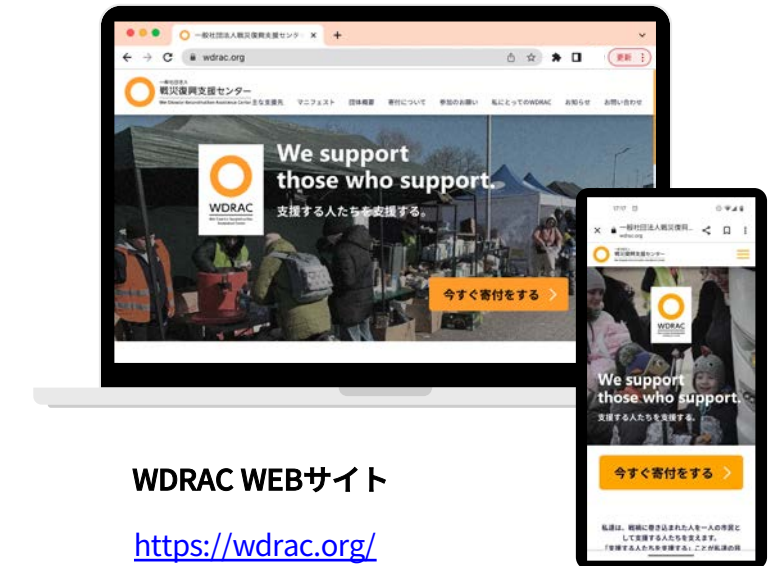
WDRACの活動内容

01

寄付事業

支援対象者の顔と実態が分かる活動への金銭的支援活動を実施。
また、そのための募金活動を日本国内にて実施。

- 寄付受付のハブとして、WDRACのホームページを公開。その中で、個人向けのスポット寄付の他、マンスリー寄付、クラウドファンディング寄付などを実施
- 各所にて、WDRACのポスター・パンフレットの配布を実施
- チャリティコンサート、商品販売連動型寄付など、多様な募金方法を実施



WDRAC WEBサイト

<https://wdrac.org/>

02

普及啓発事業

戦災復興支援に向けての公益活動を推進・啓蒙し、
関心やボランティア精神の涵養を図っていく活動。

- WDRACのホームページから、情報発信や寄付受けのハブとしていく
- YouTubeでのWDRAC RADIOや、TwitterなどのSNS実施
- イベントやセミナーの開催
- その他PR活動（NHK「おはよう日本」などで紹介されました）



記憶のダイアリー ~あの日あの頃
第40回~第43回

<https://www.youtube.com/watch?v=ngLbq066CyE>



“支援者を支援する”日本にいてウクライナ
にできることは

<https://www.nhk.jp/p/ohayou/ts/QLP4RZ8ZY3/blog/bl/pzvl7wDPqn/bp/pa7ew4vXRp/>

01

顔の見える支援先。密なコミュニケーション

私たちWDRACの支援先の人々は、大きな組織には属さず、個人で、草の根のネットワークやコミュニティと連携しながら支援活動をしています。私たちは、そんな彼らを「**unsung hero (アンサングヒーロー、名もなき英雄)**」と呼び、支えます。必要なときに必要な人に必要な物が効果的に届けられるように、彼らと日常的な情報共有の機会を持ち、現地でどのような対象に対しどんな支援をするか、どれくらいのコストがかかるのかを共有した上で、寄付金を決定・送金しています。

02

寄付はほぼ100%を現地に回す

WDRACは、学生、会社員、広報、デザイナー、教員、経営者、アスリート、アーティスト、税理士など多種多様なバックグラウンドを持つメンバーの活動によって支えられています。それぞれの専門性を活かし、仕事や学業の合間の時間を少しずつ持ち寄ること、またチーム単位での作業と連携をすることで効率の良い活動を実現することができています。日常の活動はすべてがオンライン上でのやりとりで進めることで、**無理のない活動参加を可能にし、また、低い運営費**とすることができています。

03

現地の経済も回し、自立も支援する

WDRACは日本で物品を購入して現地に送ることは殆どしません。現地で活動するアンサングヒーロー達に金銭的な支援を行います。彼らは、そのお金で支援物資を購入するなどの活動を行います。そのため、**現地経済にお金が循環することになり、支援に使用した金額はほぼ100%現地復興に回っていく**こととなります。そして、自立支援へとつなげていきます。

Unsung Heroes

アンサンブヒーローたちの活動内容ご紹介



Oleg Chernov

オレグ・チェルノさん

Patricia Kudo

パトリッチア・クドーさん
(写真右)

Simon Massey

サイモン・マッシーさん
(写真左)

Travis Goode

トラヴィス・グードさん

Michaela Bostelmann

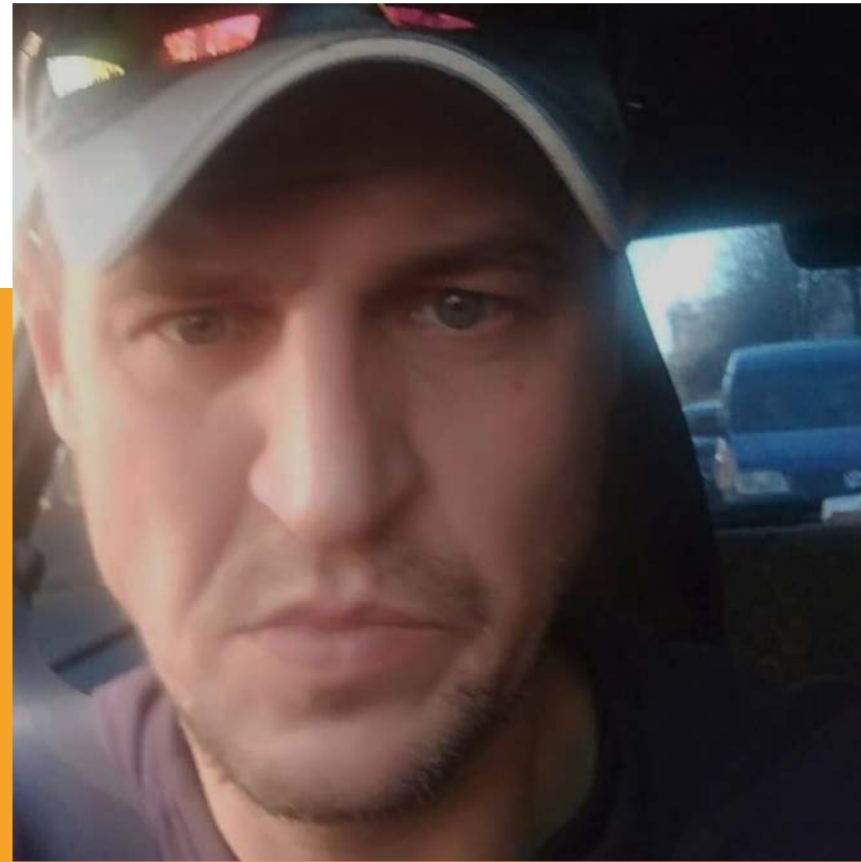
ミカエラ・ポステルマン
さん (写真右)

Iana Shchubelka

ヤーナ・シュベルカさん

Introduction of Unsung Heroes Activities

アンサングヒーローの活動紹介



Oleg Chernov

オレグ・チェルノさん

これまでの支援金額合計

1,000,000 円

自身も戦災被災者でありながら、 1人淡々と物資配達の支援を続けるタフなウクライナ人

2022年3月31日、動き始めたばかりのWDRACのfacebookグループに「支援先候補にキエフ市内Olegを考慮頂けましたら大変光栄です。」という投稿がありました。これにより私たちは、キーウで1人、病院や消防署、シェルターなどに食料をはじめとする物資を配達をする男性がいることを知りました。投稿主は長尾彰の知人で、オレグの従姉妹にあたるカーチャと友人であったことから彼の情報、そして支援の依頼が私たちのところへ届いたのです。

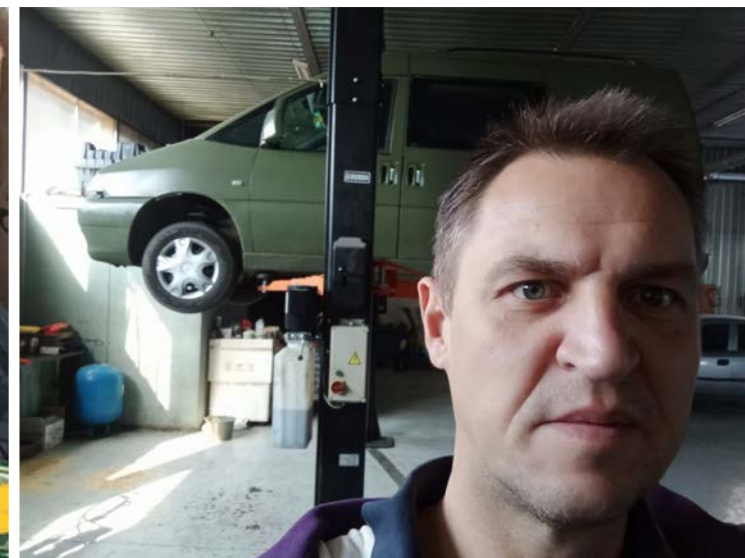
そして4月5日にはカーチャ、オレグと直接オンラインで話をする場をもち、そこには約20名のWDRACメンバーも参加しました。そこで彼の活動をサポートしていくことを決めると同時に、長尾はオレグと直接連絡を取るようにもなりました。

年齢が同じで、家族構成が似ている長尾とオレグはすぐに親しくなり、2人はキーウの状況や彼が必要とする支援についてはもちろん、何気ない会話も日々重ねられました。親しくなったことで、オレグからは時には近くで爆撃が起きたという情報や、彼の幼馴染が軍に入り前線に行くため見送った、というような生々しい話が届くこともあります。

初めてのミーティングで「私たちに何をしたい？」と質問すると、「君たち次第だよ」とオレグは答えました。今後も互いに連絡を取りつつ、彼が淡々と物資配達の支援を続ける限り、私たちはオレグのサポートを続けていきます。



オレグが運ぶ支援物資は日用品がほとんど



WDRACの寄付で運搬用の車を購入



感謝を込めて、と車の窓にはWDRACのロゴが入っている

Introduction of Unsung Heroes Activities

アンサングヒーローの活動紹介



Patricia Kudo

パトリッチア・クドーさん (写真右)

これまでの支援金額合計

3,500,165 円

ルーマニアで避難民に愛あるサポートを続けるドブラ・ハタのお母さん

ウクライナの南西に隣接するルーマニアは、今もウクライナからの避難民が多く滞在する国です。そんなルーマニアの北西部にあるクルジュという都市で、避難民の受け入れや物資のサポートをするパトリッチア・クドーという女性がいます。

クドーという馴染みのある響き、実は彼女は日本に留学していた過去があり、日本語も堪能です。WDRACが彼女を支援することになったのは、パートナーである工藤さんが長尾の知人を通じてサポートの相談をしたことがきっかけでした。

パトリッチアが運営するセンターは「ドブラ・ハタ」と呼ばれ、日本語で「やさしさのあるおうち」を意味します。その名の通り、彼女はセンターを訪れる人々に優しさあふれる笑顔で接し、季節ごとのイベントを催したり子供達へプレゼントを贈るなど、避難してきた人たちの心の面も含めてサポートを続けています。

一方、避難生活が長期化する中では、一時的な避難生活のサポートから、子供達の学習サポート、人々の心のケア、経済面を考慮した仕事のサポートなど、支援の内容も変化しています。WDRACではその都度ミーティングを行い、彼女が今必要と感じる支援ができるよう時にはクラウドファンディングで集中的に資金を募りながらサポートを続けています。

パトリッチアが笑顔で活動できることが避難民のサポートにも繋がると信じ、今後もコミュニケーションを取りながらサポートしていきます。



拠点に集まった物資の様子



ドブラ・ハタ（やさしさのあるおうち）で行われたハロウィンパーティー



学童保育の場としても使われ、専門のスタッフも常駐している

Introduction of Unsung Heroes Activities

アンサングヒーローの活動紹介



Simon Massey

サイモン・マッシーさん（写真左）

これまでの支援金額合計

1,786,371 円

とにかく足を使い、現場の声を聞き、困っている誰かのために動き続ける 心も体も大きなビッグ・サイモン

イギリス在住のサイモン・マッシーは、ウクライナ侵攻が始まって間もない2022年3月、居ても立っても居られずポーランドへ向かいました。

サイモンは自身の活動を[Mission Ukraine](#)と称し、ウクライナとの国境の街、ポーランドのメディカで避難民たちへ食料や衣料品などの物資の荷解きや配布など、とにかく現地で求められる手助けをするとともに、SNSで現場の状況を伝え、寄付を呼びかけました。また4月にはボランティアが滞在するための拠点づくりにも取り組みました。

5月の終わりからは、メディカを拠点にウクライナ国内へ物資を配達するという活動も行っています。この辺りからは、現地の他のボランティア団体とも連携を取るようになり、支援の幅も徐々に広がっていきます。

そんなサイモンの活動を知った古くからの友人、トラヴィスもアメリカから駆けつけ、彼らは現地での活動を共にすると同時に、今後も長期的に戦災避難民への支援を行っていけるよう、共同でNGOの設立も行いました。

WDRACメンバーの1人と元同僚だったサイモン。その繋がりから、彼の活動を3月よりサポートしていますが、今後WDRACとしては、現在サイモンが行っているウクライナへの支援活動へのサポートを継続するとともに、彼らが持続的に戦災支援の活動を行っていけるよう、アイデアを出し合いながら共に今後の計画を進めていく予定です。



ウクライナ国内に入り、東部の町に物資を届けているサイモン



サイモンが作ったボランティアのための拠点



物資の買い出しは基本、現地で行う

Introduction of Unsung Heroes Activities

アンサングヒーローの活動紹介



Travis Goode

トラヴィス・グードさん

ウクライナから将来的には世界中の戦災被災者の支援を サイモンの心強いパートナー

WDRACが立ち上がった初期からサポートをしているサイモンから届くメッセージ動画に、あるときから、隣でよく似た優しい笑顔で「おはようございます」と挨拶をする人が増えました。彼の名はトラヴィスといい、サイモンの元同僚、古くからの友人でもあります。今回、サイモンの活動を知り、アメリカから仲間に加わりました。ウクライナ国内で物資を配達する際には海を越えて駆け付け一緒に配達に参加しています。サイモン同様、共通の知人がWDRACメンバーにおり、彼もまた「友達の友達」です。

トラヴィスの加入はサイモンにとっても大きな変化で、2人は今後も継続的に支援活動を行うための次のステップとして、トラヴィスの住むアメリカで共同でNGOを設立しました。立ち上げた会社の名前は『Actions beyond words(アクションズ・ビヨンド・ワーズ)／言葉を越えた活動』。ウクライナの継続的支援はもちろん、将来的には世界中の戦災被害者に支援ができるよう活動することを目的としています。現在は税控除の認定も受けられるよう手続きを進めています。

これらは私たちWDRACとの関わりによって生まれたアイデアだそうで、彼らは私たちに、「活動を想像以上に拡大し良い未来を作り上げていくためのメンバーだよ」とも言ってくれています。私たちWDRACも今後も彼らとコンタクトを取りながら、互いに助け合うネットワークを世界に広げていけるよう活動を共にしていく予定です。



物資の運搬を手伝うトラヴィス



支援先の家族から
もてなしを受けることも



物資を受け取った人はみな笑顔に

Introduction of Unsung Heroes Activities

アンサングヒーローの活動紹介



Michaela Bostelmann

ミカエラ・ポステルマンさん（写真右）

これまでの支援金額合計

1,000,000 円

国境からドイツまで 避難民を希望の場所へ送り届けるバスドライバー

ドイツで大型バスの運転手をしていたミカエラ（以下、ミカ）、彼女は既に定年退職していましたが、ウクライナ侵攻直後からバス会社の仲間とともに国境付近に避難してきた人々を、バス会社がある都市やベルリンを中心にドイツ国内へ送り届ける支援に動き出しました。

ドイツからウクライナ国境までは片道約1200キロあり、ドライバー数名で2～3泊しながら移動します。ウクライナ国境へ向かう際は医療用器具や飲料水、食料など多くの物資を積んで行き、約50名ほどの避難民を乗せてドイツへと戻ります。途中、ルーマニアやハンガリーの国境では入国検査のために何時間も待たされることもあります。

この工程を一往復するにはガソリン代や食費、宿泊費などを含め約50万円程度かかり、その費用はバス会社からの支援とドライバーたち自身のお金で工面していました。

そんなミカの活動を共通の知人を通じて知ったことが、長尾彰がWDRACを立ち上げたきっかけでもあります。長尾は共通の友人を通じてミカと直接連絡を取るようになり、彼女が必要とするお金を寄付できるよう具体的に動き始めます。「支援する人を支援する」や「支援先は友人の友人」といったWDRACの形はこうして出来上がりました。

現在、ミカの活動はひと段落しましたが、彼女のように現場で誰かのために動き回っている人に、タイムリーかつダイレクトに届く支援をWDRACは今後も続けていきます。



ミカが運転するバス



トランクには大量の支援物資が



ウクライナ国境～ドイツまでは片道2～3泊の大移動

About Donations

寄付について（実績）


皆さまからお預かりした寄付金額の合計は、**8,815,312 円**

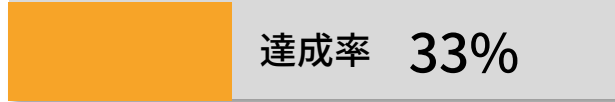
暖かいご支援をいただき、誠にありがとうございます。
お預かりしたお金は、アンサングヒーローたちを通じ、必要な支援に充てられました。

※ 集計期間 | 寄付開始日から2022年9月30日

※ 通常の寄付は、7%を限度としてWDRACの運営費用に充てております。

クラウドファンディング実績

パトリッチア **1,500,165 円**
06月28日～07月15日
(目標金額 / 2,800,000円)  達成率 53%

サイモン **608,700 円**
09月17日～09月30日
(目標金額 / 1,800,000円)  達成率 33%

※ サイモンへのクラウドファンディングの入金は、10月（第二期）に算入します。

後援イベント実績

プレイバック・シアター ワークショップ **80,000 円**
06月18日開催
参加者数 / 30名

音楽と映像のチャリティーイベント **58,564 円**
10月2日開催
参加者数 / 60名

01 運営体制について

運営・IT・広報・会計・コミュニケーション・通訳翻訳・情報収集・ファンドレイズの8つのチーム制で活動を開始。毎週土曜日、21時からのオンラインでの定例会、必要に応じてチーム単位でのミーティングを実施。活動の9割以上はオンライン上で行われています。
活動当初から合議制での意思決定を重視し、活動の透明性・公益性を図るとともに、運営コストを極めて低くすることで寄付を有効に使えるよう効率を重視した組織運営をしています。



02 アンサングヒーローとのコミュニケーションについて

現地で活動するアンサングヒーローたちとは、日常的に情報共有の機会を持ち、現地でどのような対象に対しどんな支援をするか、そしてそれらの支援活動にどれくらいのコストがかかるのかを共有した上で、寄付金を送金しています。
「善意の押しつけ」にならないよう、また必要なときに必要な人に必要な物が効果的に届けられるように、現地のニーズを的確に汲み取った上でアンサングヒーローたちをサポートしています。



Project Review

事業振り返り 2/2

03 事業に対する評価指標について

1期目は「とにかく始めること、続けること」を優先に事業を進めてきました。お預かりした寄付のうち、事業運営にかかるコストは7%ほど。運営コストを最低限度に設定できているという強みがあり、適時状況に応じた支援活動ができていると言えます。一方で、活動を通じた社会的なインパクトをどの指標で図るべきか、という具体的な指標（例：社会的インパクト評価指標）の必要性を認識していますが、1期目はこれらの指標についてどうあるべきか、専門家の助言を受けながら「寄付金が戦災避難者にどのような影響を与えたかを何で評価するか」ということを検討しています。



04 ボランティアについて

日々の活動は8つのチームに分かれ、およそ40名ほどが活動に参加しています。学生、会社員、教員、経営者、アスリート、アーティスト、税理士など多種多様なバックグラウンドを持つメンバーがWDRACの活動を支えています。それぞれの専門性を活かし、仕事や学業の合間の時間を少しずつ持ち寄ること、またチーム単位での作業と連携をすることで効率の良い活動を実現することができています。日常の活動はすべてがオンライン上でのやりとりで進めることで、無理のない活動参加が可能になりました。



Financial Report

会計報告書 1/2

令和4年度 決算サマリー (令和4年3月25日～9月30日)

収入 **15,284 千円**

支援向け寄付金 8,815 千円

運営向け寄付金* 6,469 千円

支出 **7,926 千円**

活動支援金 7,286 千円

広告宣伝費 280 千円

支払手数料 312 千円

新聞図書費 11 千円

租税公課 35 千円

収支差額 **7,358 千円**

【収入】

4月～9月の6ヶ月の期間で、約500名の方から、15,284千円の寄付をいただきました。

※一般正味財産の部と、指定正味財産の部の受取寄付金の合計額となります。

* 設立初期に、活動資金・諸費用向けとして、寄付をいただきました。

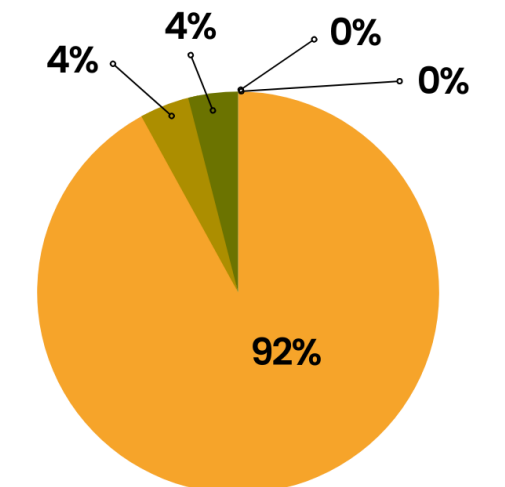
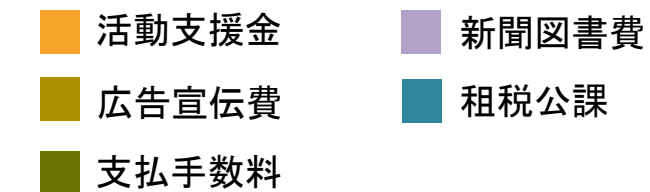
【支出】

全支出のうち、92%がアンサングヒーロー達への活動支援金となりました。

✓ 活動支援金：5名のアンサングヒーローたちに、計7,286千円の支援金をとどけることができました。

✓ 支払手数料：このうち、約200千円は、活動支援金を海外に送金するための手数料です。

支出内訳



【収支差額】

必要な時に必要な金額を話しながら支援しているため、収支差額は来年度以降の寄付に活用させていただきます。

Financial Report

会計報告書 2/2

令和4年度決算書

1 貸借対照表

令和4年9月30日現在

(単位：円)	
科 目	当年度
I 資産の部	
1 流動資産	
現金預金	7,426,276
流動資産合計	7,426,276
2 固定資産	
(1) 特定資産	
特定資産合計	0
(2) その他固定資産	
その他固定資産合計	0
固定資産合計	0
資 産 合 計	7,426,276
II 負債の部	
1 流動負債	
未払金	68,000
流動負債合計	68,000
2 固定負債	
固定負債合計	0
負 債 合 計	68,000
III 正味財産の部	
1 指定正味財産	43,000
(うち、特定資産への充当額)	(0)
2 一般正味財産	7,315,276
(うち、特定資産への充当額)	(0)
正味財産合計	7,358,276
負債及び正味財産合計	7,426,276

2 正味財産増減計算書

令和4年3月25日から令和4年9月30日まで

(単位：円)

科 目	当年度
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
受取寄付金	15,241,533
受取寄付金	13,741,368
受取寄付金振替額	1,500,165
雑収益	25
受取利息	25
経常収益計	15,241,558
(2) 経常費用	
事業費	7,768,386
支援金	7,286,536
広告宣伝費	280,236
支払手数料	201,614
管理費	157,896
租税公課	35,003
新聞図書費	11,143
支払手数料	111,750
経常費用計	7,926,282
当期経常増減額	7,315,276
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	7,315,276
一般正味財産期首残高	0
一般正味財産期末残高	7,315,276
II 指定正味財産増減の部	
受取寄付金	1,543,165
一般正味財産への振替額	△ 1,500,165
当期指定正味財産増減額	43,000
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	43,000
III 正味財産期末残高	7,358,276

一般社団法人 戦災復興支援センターでは、
公益法人会計基準に準拠して、決算書を作成しております。

<https://wdrac.org/wp-content/uploads/2022/12/e81c55f23d124892cb120a646e20ec02.pdf>

Thoughts for The Second Phase

第二期目に向けて

基本方針

本年度は、次の3点を強化・推進します。

1. 寄付事業、特に法人営業の強化
2. 中長期目標である「当センターへの関与者の意識・行動変容」
に向けての初期設計
3. 公益化を視野に入れた体制・規程の整備



Thoughts for The Second Phase

第二期目に向けて

1. 寄付事業

災害被災者を着実に支援するために、被災地現地において実際に支援活動を行う者（以下「支援者」）を支援します。また、そのための募金活動を行います。昨年度は個人向けの基盤を構築しましたが、本年度は個人向け募金活動を継続しつつ、法人向けの構築・強化を進めます。

・個人向けに広く寄付や協賛を募る活動

- ・ 個人向けのマンスリー寄付、クラウドファンディング寄付、ポスター・パンフレットの配布
- ・ その他、コンサート等との連携など、募金の仕方の多様化を継続実施

・（今期重点活動）企業・団体向けに寄付や協賛を募る活動

- ・ 企業・団体向けの募金活動などを設計し、活動を開始していく

・（今期重点活動）寄付者向けのコミュニケーション

- ・ 寄付活動や被災者・支援者への関心が継続していくように、寄付者へのコミュニケーションを設計・実施（報告メール、アニュアルレポート、満足度調査、等）
- ・ 当センター関与者及び寄付者の意識・行動変容に資する活動・コミュニケーション施策の検討・設計

・支援対象者の顔と実態が分かる活動への金銭的支援活動

- ・ 本年度の支援も、金銭的な支援及び精神的なサポートを中心とする。
- ・ 被災者に一番近い支援者に直接金銭を届けることで、中間コストを最低限にする仕組みを構築し、ノウハウを蓄積していく。

男が浜辺を歩いていると、打ち上げられたヒトデを海に投げ入れている少年がいた。

ヒトデは浜辺を埋め尽くすほどの数だった。

男は少年にこう尋ねた。

「1つずつ投げていても、何も変わらないのではないかね？」

すると少年はヒトデを手に取り、こう答えた。

「こいつにとっては大きな変化さ」

支援する人たちを支援する。

WDRAC
Welfare Development Research Association for Children

Thoughts for The Second Phase

第二期目に向けて

2. 普及啓発事業

一般市民による戦災復興支援に向けての公益活動を推進・啓蒙し、一般市民や団体の戦災復興や人道支援への関心やボランティア精神の涵養を促します。

・インターネットや出版等による情報提供の活動

- ・ 当センターのホームページ (HP)を公開し、情報発信や寄付受付けのハブとしていく
- ・ SNSやYouTube等による情報発信を継続して行っていく

・人道支援活動に関する勉強会やセミナーを開催する活動

- ・ 被災地からの復興情報共有会や、当センターメンバーや有識者によるセミナーを行っていく

・国内外における人道支援団体と連携する活動

- ・ 被災地支援を円滑かつ効果的に行うため、国内外の非営利組織との連携を行っていく



Thoughts for The Second Phase

第二期目に向けて

3.公益化を視野に入れた体制・規程の整備

法人としての経営体制を強化。また、より支援者達への貢献を大きくするために公益化を目指した活動を強化します。

- ・（今期重点活動）公益化を視野にした各種整備。具体的には、体制強化、仕組み・プロセス・基準の整備、各種規程の整備、中期計画策定を行う
- ・ビジョン・方針などの各メンバーへの浸透活動を行う



Organization

組織概要

代表理事

長尾 彰

理事

星 聡

西尾 伸介

アドバイザー

鈴木 寛（東京大学、慶應義塾大学教授）

アンサングヒーローに想いを託してくださったメンバーからのメッセージ



藤森 隆さん
長野県
会社経営者

経営者としてメンバー一人一人が関心を持ち続けられる支援をしていく

経営するジュエリーの会社で、お客様に1点ジュエリーをお届けする度に、100円を寄付するという社内PJを4月に始めて、これまでに3,000件30万円以上をヒーローたちに託すことが出来ました。僕を含め、会社のメンバー一人一人がウクライナや周辺の国々で、日常が戻ることを祈り耐える人々、それをわが身を顧みず助けようと活躍するヒーローたちに、毎月少しでも心の片隅で思いを寄せられる機会になるように、支援を続けていきます。



小島 有加里さん
神奈川県
洋菓子店オーナー

少しの気持ちの届く先は・・・

「寄付をする」ってちょっと気恥ずかしくて気おくれすることがありますよね。私もそんな一人です。コンビニの募金箱に入れるのも躊躇したりでも、うちのお店（洋菓子店）のワドラックの募金箱に寄付してくれる方は本当にさりげなく、少しですけどって、、その少しの気持ちが集まって集まってアンサングヒーローへの大きな支援になること実感しています。

CONTACT US

お問い合わせ

活動内容や寄付の状況などについて、様々なメディアで発信しております。



一般社団法人

戦災復興支援センター

(@WDRAC.official)

<https://www.facebook.com/WDRAC.official/>



WDRAC

戦災復興支援センター

(@wdrac)

<https://www.youtube.com/@wdrac>



WDRAC

(@wdrac2022)

<https://www.instagram.com/wdrac2022/>



WDRAC

オフィシャルアカウント

(@WDRAC_official)

https://twitter.com/WDRAC_official

メールでのお問い合わせをご希望の方は、HPにございます、プライバシーポリシーをご確認の上、お問合せページよりご連絡くださいませ。
メールのご返信には、数日間お時間を頂戴する場合がございます。あらかじめご了承ください。 <https://wdrac.org/contact/>



THANK YOU

<https://wdrac.org/>

寄付はこちらから

WDRACのホームページから
簡単にできます。

